

心臓移植患者が 「和温療法」で次々と改善

心不全の患者さんには禁止されていたサウナ浴が治療になるという

鄭先生。心臓移植が必要な重症の患者さんも改善する

「和温療法」について、お話を伺いました。

医療ジャーナリスト・田辺 功

余命半年の重症患者が サウナ浴ですっかり改善

余命半年や一年で心臓移植しかない、と宣告された重症の患者さんが何人もサウナ浴ですっかりよくなっている。足の血管の閉塞や線維筋痛症なども……。こんな驚きの治療法を鹿児島大学が開発し、世界に発信している。開発者の鄭忠和さん（六十三歳）は、従来の温熱療法と区別して「和温療法」と名づけた。頼もし

く、かつ患者さんに優しい治療法とは、どのようなものなのだろうか。

鹿児島大学病院心臓血管内科には、大小あわせて四つの乾式サウナ室がある。午前九時から午後四時まで、看護師三人が交代制で、毎日三十数人の患者さんに応対する。

半数は重症の心不全、残りは閉塞性動脈硬化症、線維筋痛症や慢性疲労症候群などの患者さんたちだ。パジャマに着替え、血圧などを測定した後、サウナ室へ。ドアには点滴の

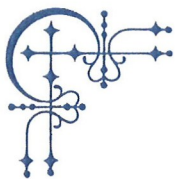
チューブを通す口が付けられており、入院中の重症患者さんは点滴をしながらサウナ浴をする。

一般のサウナに比べて温度は低く、室内は天井から足元まで摂氏六十度で一定している。患者さんは十五分サウナに入ると、体の深部体温が摂氏一度から一・二度上昇する。その後、安楽イスで肩まで毛布にくるまり、頭もタオルで包んで保温し、三十分休む。それから心地よく流した汗に見合った水分を補う。入院患者さんは週五回、外来の患者さんは週

今回訪ねた名医



鹿児島大学病院心臓血管内科教授
鄭忠和さん



鄭さんが前任の鹿児島大学霧島リハビリテーション病院(鹿児島県霧島市)で和温療法を始めてから満二十年が過ぎた。これまで千人以上(延べ数万人)を治療したが、一番数も多く、効果があつたのは重症心不全の患者さんだ。

重症心不全の患者さんに 特に効果があつた

二、三回続ける。

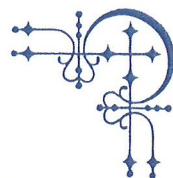


1人用のポータブル治療器。市販器もこのようなタイプ(鹿児島大学病院にて)

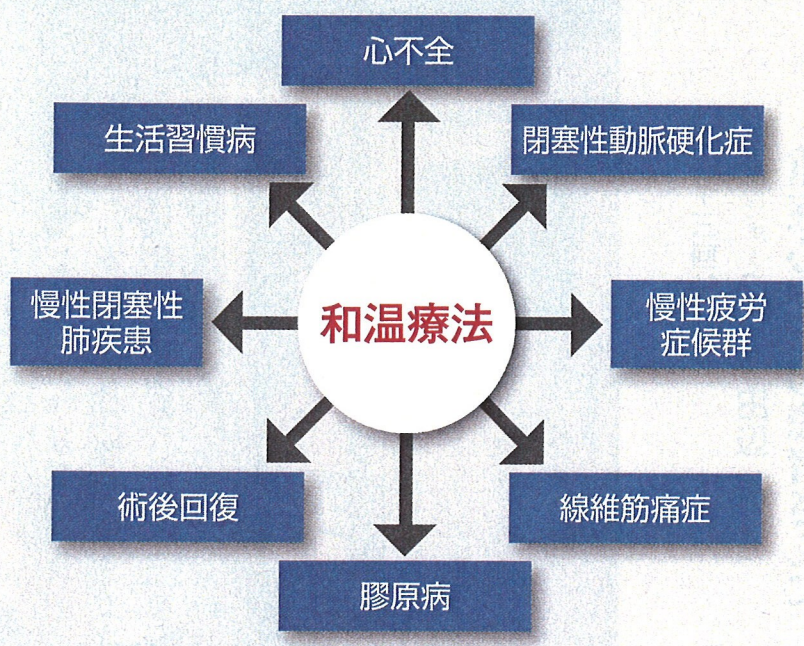
七十七歳で昨秋、脳梗塞で亡くなった離島在住の男性Aさんが典型的だ。一九九〇年と九一年の二回、心筋梗塞を起こし、重症心不全になった。鹿児島市内の病院で「もう先はない」といわれて霧島リハビリテーション病院に紹介されてきた。九一年七月から週五回、毎日一回のサウナで治療を続け、二カ月で退院。その後は自宅で週四、五回のサウナ治療、さらに月一回は船で鹿児島大学病院に通った。計十八年間も和温療法を続けていたことになる。鄭さんが頼み込んで心臓を解剖させていただいた。Aさんの心筋の大部分は厚さ二ミリで石灰化してヘルメット状態。左心室のごく一部の壁が動いて血液を全身に送り出していた。解剖した医師は「これで十八年もふつうに日常生活をしていたとは信じられない」と驚いていた。

拡張型心筋症の六十代男性Bさんは二〇〇八年五月、慢性心不全と診断された。移植が必要な重症だが年齢オーバーで対象にならない。補助人工心臓を装着するしか救命できないと思われた。左心室の機能は通常の数分の一で、心不全の重症度の目安である血液中のBNP(脳性ナトリウム利尿ペプチド)が一万六〇〇〇もあった。BNPは心臓を守ろうと心筋自身が分泌するホルモンで、正常値は二〇以下、五〇〇以上は重症心不全とされている。

和温療法を始めた時のBNPは四五〇〇だったが、一カ月後に一五〇〇、四カ月後は四六〇となり退院した。関連病院で和温療法を毎日続け、BNP四〇〇前後でいまも健在だ。心臓内の血液の逆流もほぼ消えた。中学二年生の少女Cさん。同じ拡張型心筋症で三年前、小学校六年生の時はBNPが二八〇〇だった。移植対象だが、別の病院の小児科に入院のまま週四回、鹿児島大学病院に通い、一カ月で退院できた。外来でさらに週四回の和温療法を続け、今



和温療法が有効な病気



年二月にはBNPは三〇まで下がり、日常生活がふつうにできるようになった。こんな患者さんもある。六十代の男性Dさんは和温療法を続けて数年間、BNP一〇〇程度で安定していた。ところが〇六年に一三〇〇まで悪化した。実は、病院にいつも連れてきてくれていたDさんの妻が

がんで亡くなり、一年余り和温療法を中断したせいだった。再開して再びよくなった。

閉塞性動脈硬化症や慢性疲労症候群にも有効

なぜ心不全に有効なのだろうか。

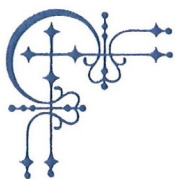
鄭さんたちはいくつかの動物実験をした。心不全ハムスターを使った実験では、血管機能の改善に係る一酸化窒素(NO)が増え、寿命が三五%も延びることがわかった。「和温療法により、心臓のポンプ機能や血管機能が改善し、不整脈もなくなります。交感神経の緊張を減らし、副交感神経の働きを高めます。その結果、心身はリラックスして患者さんの不安感は軽減します。食事ができ、睡眠が取れ、うつ傾向が取れます。便通も顔色もよくなりますね」和温療法は他の病気にも効果がある。動脈硬化で足の血管が狭くなったり、つまって血液不足になる閉塞性動脈硬化症は、しびれ、歩行困難から、さらに重くなると足先が壊死

して、切断しなければならなくなる。鄭さんは一酸化窒素の血管新生効果に着目した。これまで約五十人を治療したが、予想通り、どの患者さんも痛みが減り、歩行距離が延び、足の血流が増えた。床ずれのような潰瘍部分が週ごとによくなり、足の切断をまぬがれた患者さんが何人もいる。

ひどい疲れを訴える原因不明の慢性疲労症候群も自覚症状が改善する。二十七人中十六人が社会復帰でき、十人は日常生活に支障がなくなった。体中が痛む線維筋痛症も痛みが半減する。十三人のうち八人が休職していたが、うち六人が復職できた。唾液が出にくい難病のシェーグレン症候群の患者さんで劇的に改善した人もいる。

苦痛を与えず、心身を和ませて気分を爽快にする

和温療法は一九八九年、鄭さんの「親切心」から生まれた。「死ぬ前に一度、温泉に入りたい」と切望して



INFORMATION

鹿児島大学病院心臓血管内科

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

電話099・275・5316

◇和温療法を導入している主な病院

自治医大病院 (栃木県下野市)
埼玉医大国際医療センター (埼玉県日高市)
静風荘病院 (同・新座市)
東京女子医大病院 (東京都新宿区)
順天堂大学病院 (同・文京区)
虎の門病院 (同・港区)
東和病院 (同・足立区)
榊原記念病院 (同・府中市)
北里大学病院 (神奈川県相模原市)
富山大学病院 (富山市)
金沢循環器病院 (石川県金沢市)
金沢市立病院 (同)
やわたメディカルセンター (同・小松市)
岐阜赤十字病院 (岐阜市)
大垣市民病院 (岐阜県大垣市)
関西電力病院 (大阪市福島区)
枚方共済病院 (大阪府枚方市)
岡山大学三朝医療センター (鳥取県東伯郡三朝町)
山口大学病院 (山口県宇部市)
済生会熊本病院 (熊本市)
藤元早鈴病院 (宮崎県都城市)

鹿児島県内

鹿児島市 ■ 南風病院、白石病院、今給黎病院、
増田クリニック、木原クリニック、
中野内科医院
垂水市 ■ 垂水医師会病院
鹿屋市 ■ 鹿屋ハートセンター
指宿市 ■ 国立病院機構指宿病院
枕崎市 ■ 枕崎市立病院
名瀬市 ■ 大島郡医師会病院 など

いる七十五歳の男性がいた。拡張型心筋症の患者さんだ。心不全の患者さんは心臓に負担がかかるため入浴は禁止されていた。自分も温泉好きで同情した鄭さんは、学生をモデルに半年間実験し、安全な入浴法を研究した。霧島リハビリテーション病院の自動昇降式浴槽に霧島温泉のお湯を満たし、いざという時のために除細動装置も用意して入浴させた。患者さんが涙を流して喜んだため、毎日、入浴を続けたところ容体が劇

的に改善、一カ月半後には退院できた。鄭さんは入浴が心不全治療になると確信。温度や時間、方法を工夫し、より体に負担の少ない治療に発展させた。〇七年に「和温療法」と命名、同年、米国心臓病学会誌に「Waon Therapy」の論文が掲載されてから「Waon」は世界に通じる医学用語になっている。

鄭さんによると、和温療法は「医療価値が高い」「安全で副作用がない」「患者に優しい」医療だ。治療効果に

比べて費用は安く、手術や放射線のように患者さんに苦痛を与えず、心身を和ませて気分を爽快にする。「和温療法は質の高い長寿社会を維持するための『福寿医療』。できるだけ早く保険医療にし、全国に普及させたい」というのが鄭さんの希望だ。

昨年十月、医療機器メーカーのフクダ電子(本社・東京)が、一人用の移動式「和温療法器」の薬事承認を取得した。これを活用した臨床試験が計画されている。